

第3学年特別授業

令和6年2月21日(水)

卒業式まで残り10日をきりました。社会人として必要な知識と品格を身に付けるため、今週は塩荊校長、藤井副校長、山口教頭が講話を行いました。

2月19日(月) 副校長の講話

過去に旅した、フィンランド・スウェーデンの教育や文化などの特色についての話をしました。身近な人や自分が住んでいる国だけではなく、視野を広げて世界に思いを巡らせること、国際感覚・国際理解を高める必要性について学びました。



【生徒の感想】

- ・どちらの国も日本と似ている点が割とあるなど感じました。その中で幸福度に違いが出てくるのは、日本に何が足りないのか気になるなど思いました。
- ・フィンランドでは、小学校から大学までの学費や教科書代が無料だということに驚きました。
- ・これからの社会で生活するためには、日本だけでなく国際関係にもっと興味を持たないといけないし、国際情勢についても理解しないといけないと感じました。

2月20日(火) 教頭の講話

今までのキャリアを踏まえ「自分で考えて決めること」「人に気を遣うことも大切だが、自分も大切にすること」など、これからの人生で後悔しないために、自分自身の選択や行動に責任をもって歩いてほしいと語りました。



【生徒の感想】

- ・言われたことだけするのではなく、自分で考えて行動するようにしようと思いました。
- ・私は大学進学をしますが、就職に対して明確な目標なく過ごしているので、教頭先生の人生を知れたことは、時代は違えど自らのこれからの人生に活かしていけると思いました。
- ・長い人生の中でたくさんの経験をするのが今から楽しみだなど思いました。

2月21日（水） 校長の講話

「今日一日に最善を尽くす」「心は見えないが心遣いは見える 気も目には見えないが気遣いは目に見える」といった6つの言葉を挙げ、それぞれの言葉がもつ意味について話しました。また、ゆずの『栄光の架け橋』の歌詞にちなみ、落ち込んだりうまくいかなかったりしても、勇気を持って前向きに進んでほしいという熱いメッセージを生徒に送りました。

卒業後は、就職に進学にとそれぞれに進む道は違いますが、このあと進んでいく道を一步一步着実に歩いて行こうという強い決心が生徒たちからは感じられました。

いよいよ3月1日が卒業式です。生徒たちが一日一日を大切にして、悔いのない人生を送ってくれることを願います。

【生徒の感想】

- ・私は過去の失敗を引きずるタイプですが、校長先生の話聞き、過去は過去だと割り切って、その日にできる最善を尽くそうと思いました。
- ・生きてたくても生きられない人もいると思うので、一日を無駄にせず大事にして生きていきたいと思いました。
- ・一日一日を大切に過ごし、毎日挑戦していきたいです。夢を実現させたいと思いました。
- ・「一流は言われなくてもやる、二流は言われてやる、三流は言われてもやらない」という言葉が印象に残りました。就職したら最初はわからないことしかないなので、まずは言われたことをしっかりやる人になろうと思いました。慣れたら言われなくてもやれる人になりたいです。

